



三つのお願い

永田円了

The Greatest Gift You Can Give

新年の宮参りで、お賽銭をひよいと投げ、何をお願いしましたか。今回はこのお願い事を三つに絞って説く。ひとつ「みんなが幸せでいられますように」、二つ「私の受験がうまくいきますように」、三つ「あの人が立ち直れますように」。これを Aha-エンパワーメント講座の用語で言うと、第一のみち、第二のみち、第三のみち、となる

「第一のみち」の光と影

みんなと一緒に旅行し、同じものを観光し、同じものを食べ、同じように考え、同じ行動する。集団思考のみちである。集団の決まりごとに逆らうことさえなければ、持ちつ持たれつの温かい関係が築ける。我が国の一昔まえの、のどかな農村風景。仏壇で手を合わせ「おじいちゃん、おばあちゃん、孫たちはこんなに大きくなったよ」と呼びかけ、神棚の前では拍手を打って低頭する。神式で結婚式をし、葬式は仏式です。なんとおおらかな国なのか。世界は宗教で戦争をしているというのに、この国の宗教に対する意識は、第一のみちの光で覆われている。

しかしこの集団に居心地の悪さを感じ、飛び出しなら、村八分、出る杭は打たれる。個人が自立して何かをしようとすると、納豆の粘っこさで引き戻される。第一のみちの影は、個としての独立を許さな強力な闇のチカラをもっているのである。

「第二のみち」の光と影

自分がこの世に生まれた証を求めらるなら、必然的に個の自立を目指す。いままで集団の中で抑えられていた潜在能力が、殻を割って生まれ出る新しい生命のごとく、生き生きと花開く。まさに光に満ちた第二のみちの姿がそこにある。



個の可能性がどんどん発揮され、腕がみがかれ、熟練した技をもつ人物へと育つ。しかし一方、個が自立してゆく過程で、他との比較、競争が起こり、相手を押しつけてでも一番になりたいと手段を選ばない行動もうまれる。この第二のみちの闇の部分が、第一のみちの集団と相容れない不協和音を起こす。

「第三のみち」の光と影

個として自立・独立しながら、第一のみちの集団とうまく共存共創して行くことは可能なのか。可能である。磨かれた技をもって、他者が自立できるように、強くなれるよう、手助けするのである。これは、ただ相手に喜んでもらえるようにする、とは違うこと。第一のみちの集団を“強くすることによって、個が自立した強い集団が生まれる。今回の講座では、「七人の侍」の事例、「故・中村哲医師」のアフガニスタンでの活動を事例に、第三のみちの光がどのように第一のみちの集団を、自立した強い集団に育ててゆくかを検証する。

しかし、もしその行動がどんなに崇高な夢・理念をもっていたとしても、それを売名行為で行われるとするなら、それは第三のみちの影になるであろう。

<事例 DVD>

ちあきなおみ／四つのお願い
 平和な農村風景／貧乏でもみなニコニコ
 寅さん／第一のみち、と第二のみち、の橋渡し役
 奈良岡朋子／美空ひばりを語る／Noと言える自分
 坂本龍馬／土佐藩主・山内容堂へ直訴、命がけ
 連合赤軍・加藤倫教／刑期を終えて、いま語る
 七人の侍／強い集団にぞった農民
 中村哲医師／医師の白衣を脱ぐ決断／水路建設へ
 歌・松山千春／今日を越えて

円了のホームページ：www.enryo.jp



中村哲医師（享年 73）